

大空に翔る

支部だより



トリノオリンピック男子回転に出場した上柳スポーツ少年団出身の生田康宏選手（村山支部） 写真提供：山形新聞H18.2.27朝刊



トリノオリンピック女子距離複合に出場した瀬見スポーツ少年団出身の曾根田千鶴選手（最上支部） 写真提供：山形新聞H18.2.13朝刊



第41回山形県スポーツ少年大会兼ジュニア・リーダーズスクール（置賜支部）



第3回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会に出場したわかほまバレーボールスポーツ少年団（庄内支部）

記録的な大雪の中で迎えた平成十八年でしたが、漸く、春の兆しが見えてきました。お蔭さまで、平成十七年度の諸行事も無事終える事が出来ました。ご協力戴きました多くの方々に、心からお礼申し上げます。間もなく、平成十八年度の運営方針や、予算等をご提示しますので、これまでと同様に、よろしくお願い致します。

ところで、社会では、訳のわからないような出来事が数多く発生し、稍暗い気持ちになりがちですが、明るく、楽しいニュースも沢山あります。中でも、スポーツに関する情報は、私達の生活に、いつも生きる喜びと潤いを提供してくれています。野球やサッカーの話、バレーボールやバスケットボール等々、日常の会話にも事欠きません。また、トリノ冬季五輪では、若き選手達が、極度の緊張と戦いながら、そして、四年毎の集大成を、あの瞬間の舞台に懸け、滑り、舞い、競い合うドラマには、すごい感動と、勇気を戴き、改めて、スポーツの持つすばらしさを痛感している今日、此の頃です。

ご承知のように、スポーツ少年団の活動は、生涯に亘り、スポーツのある生活の原点です。「スポーツ大好き」な青少年の育成に一層のご尽力をお願い申し上げます。



ごあいさつ

山形県スポーツ少年団
本部長 原田 薫



リハーサル大会

第36回東北ブロックスポーツ少年大会

8月5日から8日までの4日間、第44回国スポーツ少年大会のリハーサル大会として、山形県金峰少年自然の家・由良海岸において開催しました。

山形県参加者

(指導者) 今野 隆(団員) 沼澤 葉、高橋翔平、押切貴則、佐々木千尋、菊池香織、押切夢美、阿部杏佳、佐々木瑛、原田梨衣、大場美咲、斎藤舞友、大川奈美、阿部真璃、菅原 幸、長谷川星、阿部麻由子、本木佑美、伊藤あゆみ、原口百恵、阿蘇奈南子、今野真理、高木香奈、高橋史夏、矢口 綾、小林志津香、伊藤文賀、佐藤美紅

22 00	21 30	20 00	19 30	18 00	17 30	16 00	15 30	14 00	13 30	12 00	11 30	10 00	9 30	8 00	7 30	6 00
入浴	自由交流	自由交流	班対抗ゲーム	班対抗ゲーム	班対抗ゲーム	班対抗ゲーム	班対抗ゲーム	班対抗ゲーム	班対抗ゲーム	班対抗ゲーム	班対抗ゲーム	班対抗ゲーム	班対抗ゲーム	班対抗ゲーム	班対抗ゲーム	班対抗ゲーム
入浴	自由交流	自由交流	文化学習活動	文化学習活動	文化学習活動	文化学習活動	文化学習活動	文化学習活動	文化学習活動	文化学習活動	文化学習活動	文化学習活動	文化学習活動	文化学習活動	文化学習活動	文化学習活動
入浴	自由交流	自由交流	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動
入浴	自由交流	自由交流	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動



海浜体験活動 (いかだづくり)

第43回滋賀県大会

指導者1名、団員8名、視察員3名を派遣しました。



記念撮影

山形県参加者

指導者 伊藤 恭子
団員 大川 奈月、三上新一郎、伊藤 陽子、佐藤 椋太、長谷川哲朗、山本 航、齋藤 瑞稀、渡部 滯

SHIPS活動成績

- 最優秀金賞 北海道
- 優秀銀賞 大阪府
- 敢闘賞 山形県、埼玉県、徳島県、福岡県、宮崎県
- かいつぶり賞 鳥取県
- 比叡賞 岡山県



参加者代表のこたばを述べる大川奈月さん

滋賀県大会報告書より



大会旗を引き継ぐ原田薫県スポーツ少年団本部長

山形県リーダー会から

リーダー会活動の中心

スポーツ少年団は団員のほとんどが小学生だと思えますが、中学生以上も団員として活動できる場です。そして、中学生以上の団員には自身のスポーツを楽しむことに加え『リーダー』としての役割も期待されています。

リーダーは指導者と区別し、団員の代表者として、指導者と小学生団員とのパイプ役を担います。また、団員のお兄さん、お姉さんのな人であり身近な目標となる先輩です。そして、将来の指導者でもあり、スポーツ少年団ではリーダーを育てるために毎年研修会や交流会が開催されています。

山形県リーダー会は、高校生以上の県内各団のリーダーを対象に、個々の長所を伸ばすため、団の活動をより楽しいものにする目的で活動しております。活動は山形県スポーツ少年団本部事業の運営補助、県リーダー交流会や研修会を行い、県内各地の仲間とスポーツや文化活動を通し、交流やリーダーとしての役割を学びます。みなさんもリーダー会に参加し、多くのことを体験して、今後の活動を楽しめるものにしてみませんか。責任感が身につく、やりがいのある活動です。詳しくは山形県事務局へお問い合わせ下さい。

単位団紹介

神町アスリートクラブ

斉藤 栄行

東根市立神町小学校学区の児童を対象に、平成七年五月に発足し十年が経ちました。「走るのが好きな人、みんな楽しく走ろう」という事で活動し、特に速く走るとも「やる気」があれば受け入れていきます。また、陸上競技だけにとらわれず、特に冬期間は体育館での練習なので、色々な競技や種目を通して、さまざまな形で体を動かし偏りのない体づくりを目指しています。その結果という事ではないですが、県スポ交流大会に於いて、三年連続で女子四〇〇MRでの優勝を始め、多種目、多年に渡り大変すばらしい成績を残してくれています。そして、その成果を土台にして、中学校へ行ってからもすばらしい活躍をしてくれて大変うれしく思っています。

これからも、成績だけにこだわらず走る事が好きになれるよう、永く続けてくれるように活動をしたいと思っています。

最後に、指導者、子供達、保護者の三者が楽しく活動が出来るように、ますます頑張りたいと思います。



有屋スキースポーツ少年団

代表指導者 松澤 和仁

有屋スキースポーツは県北部の金山町有屋地域、有屋小学校の児童を対象として現在一年生から六年生まで三十三名で活動しています。近くには全国植樹祭が開催された遊学の森やカムロスキー場があり、澄んだ空気、きれいな水、豊かな緑、それに温かい地域の人々に囲まれ伸び伸びと元氣いっぱい活動しています。

春から秋にかけては様々なスポーツを通じて体を動かす事の楽しさを体験しながら冬のクロスカントリースキーにむけた基礎体力づくりを行っています。

スキーシーズンに入ると個々のレベルや目標に向けて練習を積み各種大会に積極的に参加しています。

小学校の児童数の減少に伴い団員も減少し、問題点も生じています。しかしながら、小規模であっても学年の異なる子供達が一同に活動することにより、仲間意識の大切さや助け合いの精神、団結力を養う事につながっているものと感じます。

今後は我々指導者及び母集団も団の運営や指導はもちろんのこと、自らもスポーツ活動を実践し楽しむ一員として地域の中で子供達と共に「地域づくり」「人づくり」に努力していきたいと思えます。



赤湯ミニバスケットボールスポーツ少年団

代表指導者 高梨 勝男

赤湯ミニバスケットボールスポーツ少年団は、昭和六十年に発足し、今年で二十周年を迎えました。その結成二十周年を記念して九月二十四、二十五日にミニバスケットボール交歓大会を開催致しました。県内外より男女合わせて二十二チームの参加を頂き、盛大に開催することができました。関係各位には、心より御礼を申し上げます。

この二十年間に、東北大会を始め、県大会にも何度となく出場を果たし、二四〇名を超える団員を送り出してきました。また、県内外のたくさんの方々と交流することができ、定期的な大会を通して子どもたちの交流が続いています。この育つていったたくさんの子どもたち、そして交流チームと築いてきた絆が、私たちの宝だと思っております。

「やればできる」これは指導する上で、一番子どもたちに体験させたいことです。練習では「できる」ようになるにはどうすればいいのかを考え繰り返し練習する。試合では「できる」事を信じて挑戦する。「できる」ようになれば自信になる。この一連の努力・挑戦・自信と繋がる「やればできる」ことをこれからも、ミニバスケットボールを通して伝え続けていきたいと思えます。

「やればできる」これは指導する上で、一番子どもたちに体験させたいことです。練習では「できる」ようになるにはどうすればいいのかを考え繰り返し練習する。試合では「できる」事を信じて挑戦する。「できる」ようになれば自信になる。この一連の努力・挑戦・自信と繋がる「やればできる」ことをこれからも、ミニバスケットボールを通して伝え続けていきたいと思えます。



遷喬剣道スポーツ少年団

指導者 成澤 和則

昭和四十二年に前身である「渡前剣道スポーツ少年団」が発足し、昭和五十六年に現在の名称に変更して渡前小学校の児童を対象に三十九年間活動を継続してきました。

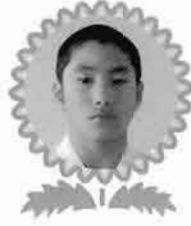
剣道を通して健全な心身を育成することを目的とし、現在、小学校三年生から六年生までの三十七名が週三回の稽古に励んでいます。指導者も十名おり、各学年ごとに担当を決めて指導にあたっています。

今まで、県大会等でも数多く入賞し、全日本少年剣道錬成大会などの全国大会にも出場しています。スポーツ少年団で活躍した団員が中学校や高校に進んでも剣道を続け、指導者やリーダーとしてスポーツ少年団に関わっていることが一番の財産になっています。

稽古の最後に、「遷喬の心」を唱和しています。これは、忍耐・努力などの人としての有り様を示したものです。今後もこの遷喬の心を大切に、剣道を通じた健全育成に努めていきたいと思えます。



団員の夢



村山河西柔道
スポーツ少年団
松倉剛志郎

ぼくが柔道を始めたのは、小学二年生の二月からでした。二つ上の兄が柔道をしていたので、時々道場に一緒に行き、その時何度も誘われ始めました。体格も兄のように大きくなかったので、最初は試合をしても、負けてばかりいました。でも、ぼくは毎日兄と一緒に練習を続けました。練習を休みたいなあと思った事が何度もありました。でも、父や母に励まされ、一回でも勝ちたいと思い、がんばって練習しました。最初にもらったメダルは銅メダルでした。兄は金メダルでした。しかも、ぼくに自慢して見せてくるので、とても悔しかったです。ぼくは、もっと強くなりたいと思い、一生懸命練習をしました。

その結果、ぼくは金メダルを獲得事ができました。それは、四年生の個人戦の県大会でした。次の年のその大会でも、ぼくは優勝し、全国大会に出場する事ができました。予選で負けてしまいました。今年、また全国大会へのキップをつかみ、予選を勝ち、決勝リーグへ進むことができました。結果、ベスト16でした。ぼくに柔道を教えてくださった先生方のおかげだと思います。これからも新しい目標に向かって練習に励みたいと思います。



戸沢道場
柔友会
斎藤 亜美

私の夢

私は三年生のころから柔道をやっています。今、私には一つの大きな目標があります。それは、中体連の個人戦で優勝することです。

私が柔道を始めたきっかけは、兄がかよっていた道場にむかえに行つたとき柔道を見ていて「私もやってみようかな」と思ったことでした。道場に入ってみると楽しいこともありましたが、でも正直やめたいと思った時期もありました。しかし、その時期を乗り越えてきたから、今は柔道がすごく楽しいです。前はつらいと思った練習も、今は楽しいと思えるようになりました。

私が中体連で優勝したいと思った理由は、同じ道場に入っている人が今年の中体連で優勝したからです。その人も小学校のころから柔道をやっていたので、私もがんばって練習して中体連で優勝したいです。今は中学生と同じ練習で、厳しいときもあるけど、絶対優勝したいのがんばりたいです。

今後は六年生としての自覚を持って行動し、五年生以下の友達をちゃんとまとめて、チームワークのある戸沢道場の小学生にしたいです。そして、くいの残らないように、これからの練習をしていきたいです。



ジュニアバドミントン
スポーツ少年団
長谷川和音

団員との約束

「ナイツッショッー」と、はげましかう声で体育館いっぱいひびく。声を出した仲間達が、かがやいて見える。こんな私と団員との約束は、いくらか負けていても相手をにらんだり、悪口を言ったりしない事です。やっぱり負けたくらいしいけど、逆に、「ありがとうございました。」と感しゃして、強い人と試合をしたんだつたら、その強い人の動きやいいところをマネして、もっと強くなって、今度は相手から自分のいいところを見てもらつて、また、さらに強くなつていくんだと思います。もう一つは、点数を見て負けた、と思わない事です。いくら相手に点数を取られているからつて、まだ負けたくわけではない。しかも、相手は自分達の方が勝っていることで、油断しているから、こういう時にチャンスがあるんです。相手はラッキーな気持ちがいっぱいあるから、ここでは人回して、一回でもきめたら相手はいきなり動けなくなるから、ここで逆転したりすることが出来る。だから点数を見て負けた、と思うことは、自分の気持ちと一緒に消して、新しい気持ちに切り替えて試合をする事が大事です。

これからもみんなと力を合わせてがんばっていききたいです。そして、いいことをふやしていききたいです。



いずみミニ
バスケットボール
スポーツ少年団
齋藤 歩美

バスケットに大切なこと

私達が参加するバスケットの大会のプログラムには、「ほほえみ・友情・フェアプレー」と書いてあります。どれもバスケットには大切な事だと思えますが、私は「友情」を大切にしたいと思えます。バスケットはチームプレーなので、相手も思いやる気持ち、信じる気持ちがあつてこそ、厳しい練習もいっしょにがんばれるし、勝つた時のよろこびもいっしょにあじわえるのだと思います。コーチも、「ただ勝てばいいのではなく、仲間を信らいつてプレーすることが大事なんだ。」と話してくれました。

私には、大きな夢があります。それは、バスケットの仲間といっしょに代々木の体育館でプレーする事です。あんな立派で大きな体育館でプレーをしたら、気持ちがいいなあと思います。

チームのみんなも、きっと同じ気持ちだと思つて、その気持ちを一つにすれば、すごい力が出ると思います。もうすぐ、最後の大会が始まります。今まで一生けん命教えてくれたコーチ達や、応えんしてくれる先生方や、お父さん、お母さんに、感しゃの気持ちを忘れないで、ぜつたいにくいの残らない試合ができるように、チームのみんなががんばりたいと思います。

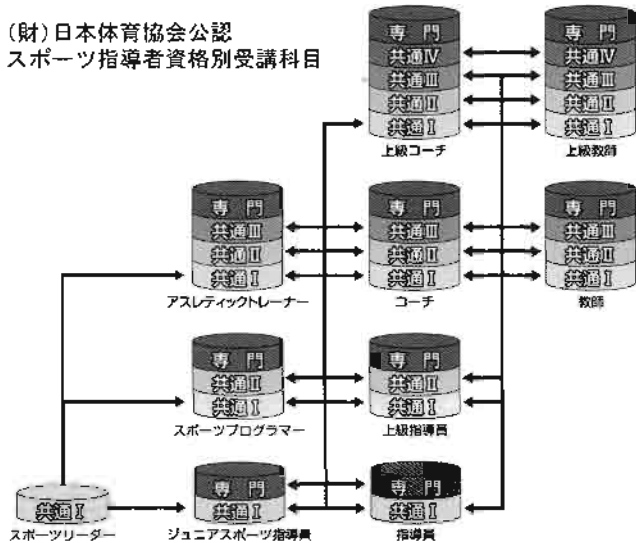
日本スポーツ少年団指導者制度が変わりました！

スポーツ少年団の指導者資格である「認定員」「認定育成員」を定めている「日本スポーツ少年団指導者制度」が、平成17年4月1日より改正されました。

この改正は、財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者制度の改定に伴うもので、「認定員」「認定育成員」資格の名称や役割はこれまで通りですが、講習会カリキュラムや資格の取得方法などが変わります。

「認定員」は、財団法人日本体育協会公認「スポーツリーダー」にもなります。

「スポーツリーダー」とは、(財)日本体育協会公認スポーツ指導者制度の改定により新設されたスポーツ指導基礎資格です。平成17年度に「認定員」として登録した指導者および新たに「認定員」資格を取得した指導者に対して、「スポーツリーダー」資格が付与されます。



「認定育成員」資格は、(財)日本体育協会公認スポーツ指導者資格を取得し、都道府県スポーツ少年団の推薦を得ることによって取得できます。

平成16年度までは「(財)日本体育協会公認少年スポーツ指導員養成専門科目講習会(兼)スポーツ少年団認定育成員養成講習会」として、日本スポーツ少年団が「認定育成員」資格取得のための養成講習会を実施してきましたが、平成17年度からは「認定育成員養成講習会」は実施しません。

「認定育成員」資格の取得には、(財)日本体育協会公認スポーツ指導者の養成講習会を受講し、下図の(対象となる資格の種類)で示した資格を取得する必要があります。

公認スポーツ指導者資格を取得したスポーツ少年団指導者は、所定の手続きを済ませ、都道府県スポーツ少年団から日本スポーツ少年団へ推薦されると、「認定育成員」として認定されます。

日本スポーツ少年団「認定育成員」資格認定

都道府県スポーツ少年団による推薦

(財)日本体育協会公認スポーツ指導者資格を取得

(対象となる資格の種類)

- ・ジュニアスポーツ指導員
- ・競技別指導者 (上級指導員・指導員、上級コーチ・コーチ、上級教師・教師)
- ・スポーツドクター
- ・アスレティックトレーナー
- ・フィットネストレーナー
- ・スポーツプログラマー

「認定育成員」資格の認定について

以下の条件を全て満たし、都道府県スポーツ少年団より推薦のあった指導者は、日本スポーツ少年団より「認定育成員」として認定されます。

(推薦対象者)

- 「認定育成員」として活動が期待される指導者
- 推薦時にスポーツ少年団に登録している指導者
- (財)日本体育協会公認スポーツ指導者資格(例:ジュニアスポーツ指導員等)を有している指導者(指導登録を行っている指導者)

※日本スポーツ少年団「少年スポーツ情報紙」スポーツジャストより抜粋

平成18年度以降、「認定員養成講習会」のカリキュラムが変わります。

都道府県スポーツ少年団にて少年団指導者を対象にした「認定員養成講習会」を実施します。講習会の実施形態は従来通りですが、平成17年度までの6単位14時間の集合講習カリキュラムから、集合講習11科目14時間・自宅学習21時間の計35時間のカリキュラムに変更になります。

また、講習会期間中に検定試験を実施します。

なお、この認定員講習会を修了し、「認定員」資格を認定された指導者に対しては、(財)日本体育協会公認「スポーツリーダー」資格も与えられます。

「市町村の動き」

●庄内町

平成十七年七月一日、余目町と立川町の合併により庄内町が誕生したが、町スポーツ少年団組織構成等の一合理化について検討中である。

現在、余目スポ少二〇団・団員五〇〇名、立川スポ少三団・団員一七三名で登録している。また、旧両町とも、スポーツ少年団活動を始めとして、中学部活動や社会人活動に至るまでスポーツが活発であり、それぞれ独自の取り組み体制が確立されており、青少年育成や社会教育上大きな役割を果たしている。同時に、昨今のスポーツ分野における両町の活躍を見れば、素晴らしい成果を上げている。

このようにスポーツ少年団活動をはじめ、スポーツ全般が活発な旧両町であるが、スポーツ少年団活動の塊部に至ってはそれぞれの歴史や取り組みの経緯から様々な違いがある。例えば、スポーツ少年団の活動内容や各単位団に対する助成、育成会や学校との連絡協議会といった組織のあり方、また旧立川では複合団として活動する単位団があるなどである。現在は、旧両町の素晴らしい特色を残しながら、さらに発展した新しい体制を確立できるような検討中である。



7月20～8月11日 派遣団員 吉田 豊
青葉剣道スポーツ少年団 (川西町)



ホストファミリーとの記念撮影

日独同時交流派遣

遠藤啓一(寒河江市)、阿部 哲(朝日町)、大場敏正(寒河江市)、奥山敏夫(河北町)、古川 卓(大江町)、高橋良浩(寒河江市)、柴崎美佐夫(寒河江市)、井上泰明(西川町)、井田 久(寒河江市)

ホストファミリー



第32回日独スポーツ少年団
同時交流受入事業 8/4～8/9
受入地区：西村山地区(寒河江市・河北町・西川町・朝日町・大江町)

八月四日～八月九日 村山支部

日独同時交流受入

第13回山形県少年少女スポーツ交流大会 開催種目 会場 参加チーム一覧

No	種目	開催期日	会場	参加チーム(人数)
1	柔道	10/2	山形県体育館主競技場	47 (321)
2	剣道	10/2	南陽市民体育館	72 (521)
3	バスケットボール	10/2	八幡町体育館 鶴岡市民体育館 鶴岡市立スポーツセンター 羽根町民体育館 酒田市立松陵小学校 平田町立南平田小学校	48 (883)
4	サッカー	10/2 10/8	山形県総合運動公園 サッカー場・ラグビー場・第2運動場 酒田北港第2緑地多目的広場	27 (476)
5	軟式野球	10/1 2日 (予備日)	酒田市光ヶ丘多目的グラウンド サンスポーツランド遊遊球場 八幡町八森山野球場 松山町多目的運動場 酒田市光ヶ丘多目的グラウンド 八幡町八森山野球場 松山町多目的運動場 松山町河川グラウンド	16 (355)
6	バレーボール	10/9	鶴岡町スポーツセンター 酒田市立若浜小学校 酒田市立魚城小学校	36 (493)
7	卓球	10/8	長井市健康学習プラザ	40 (354)
8	バドミントン	10/2	新庄市民体育館	33 (274)
9	ソフトボール	10/2	新庄市立南小学校グラウンド 新庄市立日新中学校グラウンド	14 (198)
10	ソフトテニス	10/2	酒田市国体記念テニスコート 酒田市光ヶ丘テニスコート	(297)
11	陸上競技	10/2	山形県総合運動公園陸上競技場	(501)
12	体操	10/2	山形県総合運動公園総合体育館	(126)
13	空手道	10/2	山形県立天童高等学校体育館	(294)
14	レスリング	10/2	山形県立山形高等学校レスリング場	(58)
15	相撲	10/8	舟形町立鶴羽山相撲場	(59)
16	トランポリン	10/9	上山市生涯学習センター	(72)
合計				(5,283)



柔道競技：表彰式の様子



剣道競技：表彰式の様子

「べにはな国体」開催を記念した県少年少女スポーツ交流会は今年で第十三回目を数え、十月二日を主会期に、県内各地区二十九会場において十六種目、五、二八三名の参加を得て開催されました。

県少年少女スポーツ交流大会

コース名	期日	会場	内容
庄内(飽海)会場	10月15日(土)～ 10月16日(日)	酒田市武道館	○参加者56名 ・内29名認定
村山(北)会場	11月12日(土)～ 11月13日(日)	尾花沢市共同福祉施設・ 尾花沢市文化体育施設	○参加者76名 ・内12名認定
最上会場	11月12日(土)～ 11月13日(日)	わくわく新庄	○参加者53名 ・内17名認定
置賜会場	11月26日(土)～ 11月27日(日)	米沢市置賜総合文化センター・ 米沢市営体育館	○参加者78名 ・内42名認定
庄内(田川)会場	11月26日(土)～ 11月27日(日)	鶴岡市朝陽武道館	○参加者68名 ・内40名認定
村山(東南)会場	12月3日(土)～ 12月4日(日)	山形市江南公民館・ 体育館	○参加者96名 ・内23名認定
村山(西)会場	12月10日(土)～ 12月11日(日)	朝日町創造館・ 朝日町体育館	○参加者37名 ・内12名認定



置賜会場

日本スポーツ少年団指導者制度に基づき、地域において、スポーツ少年団の育成指導にあたるスポーツ少年団認定員の養成を図るため、七コース開催しました。参加者四六四名のうち、一七五名を認定し、二八九名の認定を保留した方については、十八年度登録することにより認定されます。

認定員養成講習会



二月二十八日、県スポーツ会館において開催しました。研修会に先立ち、平成十七年度日本スポーツ少年団顕彰伝達式並びに山形県スポーツ少年団表彰式を行い、研修会では、(財)日本体育協会少年団課長小林寛氏より、日本スポーツ少年団「第八次育成五方年計画」と日本スポーツ少年団指導者制度改正について講義をいただき研修を深めました。

市町村スポ少・スポ空研修会

二月十八日、ホテルリッチ酒田において開催し、指導者、育成母集団関係者八十七名が参加しました。(財)日本体育協会公認スポーツドクターである野田晴彦氏の講演ののち、単位団の運営について事例発表、研究協議を行いました。

県指導者研修会兼育成母集団研修会

県の動き

表彰

○社会体育優良団体文部科学大臣表彰

源武館空手道スポーツ少年団(寒河江市)、川西町小松地区スポーツ少年団本部(川西町)

○日本スポーツ少年団顕彰受賞者

(市区町村表彰) 天童市スポーツ少年団(表彰指導者) 森谷 健(尾花沢市)、井上 薫(真室川町)、阿藤宜夫(鶴岡市)、佐藤 勝(酒田市)(感謝状) 加藤正恒(新庄市)

○山形県スポーツ少年団表彰受賞者

(優良団)高橋道場スポーツ少年団(山形市)、ましみず剣道会スポーツ少年団(天童市)、大江町柔道スポーツ少年団(大江町)、東根ジュニア体操クラブスポーツ少年団(東根市)、戸沢パンビススポーツ少年団(戸沢村)、糠野目剣道スポーツ少年団(高島町)、小国野球スポーツ少年団(小国町)、由良スポーツ少年団(鶴岡市)、狩川スポーツ少年団(庄内町)(功労者) 高橋喜久雄(山形市)、武田市歳(天童市)、叶 敬一(中山町)、花山忠夫(朝日町)、細矢清隆(村山市)、渡部利七(高島町)、伊藤和正(飯豊町)、片桐芳晴(鶴岡市)、上野清隆(鶴岡市)、佐藤莊六(酒田市)

各級スポーツ少年団資格取得者

○認定育成員(ジュニアスポーツ指導員)

瀧澤孝次(米沢市)、川俣 治(酒田市)

○認定員養成講習会 七コース開催

参加者四六四名(内一七五名認定)

各種事業

○県スポーツ少年大会兼ジュニアリーダースクール

七月二十九日(三十一)日飯豊少年自然の家にて開催。三十二名の団員をジュニアリーダーとして認定。少年大会の部三十二名の団員、指導者三十名、リーダー会九名参加

○全国スポーツ少年団競技別交流大会

【サッカー】(第二十九回) 八月七日(十三日) 福島県・東京都 鶴岡ジュニアFC(鶴岡市)【バレーボール】(第三回) 三月二十六日(二十九日) 北海道 若浜バレーボール(酒田市)【剣道】(第二十八回) 三月二十六日(二十八日) 宮城県 寒南剣道(寒河江市)、大谷剣道(朝日町)

○東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会

【軟式野球】七月二日 山形県 ビッググロ(東根市)、鳴光野球(鶴岡市)【サッカー】七月二十九日(三十一日) 秋田県 OSAフォルトナ山形フットボールクラブ(山形市)、FCセリオ高橋(山形市)、つばさキッカーズ(天童市)【柔道】十一月十九日(二十日) 宮城県 高橋道場(山形市)、高島町柔道(高島町)、洗心館高橋柔道(天童市)



小学生の部で優勝(上段)、中学生の部で準優勝(下段)した高橋道場スポーツ少年団

【ミニバスケットボール】三月四日(五日)

秋田県 米沢東部ミニバスケットボール(米沢市)、わかたけミニバスケットボール(山形市)、漆山バスケットボール(山形市)、うめばちミニバスケットボールクラブ(山形市)、松原ミニバスケットボール(酒田市)

編集後記

新聞報道等でご案内のとおり、昨今、非常に残念なことに、心ない指導者による団員に対する強制わいせつの容疑で逮捕されるといふ決してあつてはならない事態や小学校児童が下校中に殺害されるという痛ましい事件が発生しております。

幸いなことに、本県においてこのような事例は見られませんが、子どもたちの健全育成を担うわたしたちスポーツ少年団関係者にとつては、もう一度スポーツ少年団の理念に立ち返り、自覚と誇りを持って活動を行っていかねばなりません。

編集委員

- | | |
|------|-------------|
| 委員長 | 梁瀬 吉弘 |
| 副委員長 | 渋谷 幸一 |
| 委員 | 齋藤 武司・馬場 高子 |
| | 阿部 美枝・藤山 一栄 |
| | 志村 忠夫・安野 重幸 |
| | 水田 浩・丹 忠一 |

ワイドな補償でみんなの元気を応援します!

1,000万人の保険 スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動などに最適な保険です。

5名以上の団体で
ご加入ください。

対象となる事故 ★グループ活動中の事故 ★往復中の事故

【保険期間】平成18年4月1日午前0時より翌年3月31日午後12時まで(申込受付は3月から)

— お問い合わせ —

〒990-2412 山形市松山2丁目11番30号 ☎023(642)8321

財団法人 **スポーツ安全協会山形県支部** (山形県体育協会内)